

LION

in JAPAN

11・12
2019

札幌グリーンライオンズクラブ（竹内信也会長／40人）は継続して「千島桜」関連のアクティビティを実施している。千島桜は、北方領土の千島列島南部に自生していたことからこの名がつけられた低木の桜である。主な植生地域は札幌以北と言われているが、春には薄紅色や白色の花を付ける。

多くの市民に親しまれている千島桜の名所が札幌の国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所（以下寒地土木研究所）だ。ここでは35年ほど前に釧路方面

331-A地区

北海道・札幌グリーンライオンズクラブ

地域の宝物「千島桜」を 市民と共に育成・植樹



から苗木を多数取り寄せて敷地内に植樹し、現在は開花時期に合わせて構内を解放している。

5年前、寒地土木研究所と当クラブで、千島桜並木を地域の宝物として活用し、緑化に関わるプロジェクト推進に寄与することを目的として「千島桜基金に関する覚書」を締結。これは千島桜を地域の方に植樹をしてもらうプロジェクトで、千島桜が実を付ける6月にクラブ・メンバーが寒地土木研究所で種を採取する。その後、土造り・植付・灌水管理・頒布用ポット移

植等一連の作業をクラブに在籍する樹木医指導の下に実施。こうして3年の歳月を掛けて育てた苗木を花見の時期に来所した市民の希望者に無料頒布している。毎年約500本を配布しており、善意で寄付も頂いている。「公衆から集めた資金は公衆のための使用に帰されるべき」というライオンズクラブ会則そのままに「さくら好き」な市民・官・ライオンズクラブ三者の思いを一致させ、持続可能なアクティビティとして実施している。

（第1副会長／工藤修）